

2016年7月期第2四半期決算説明会（要旨）

2016年3月3日 10:00～
東京証券会館

代表取締役社長 梅森

◆事業環境（説明会資料 スライド2,3）

経済産業省の生産動態統計確報によりますと、平成27年1月から平成27年12月までの生産金額は、前年比0.7%増となっています。四半期の生産金額は400億円を超えており、高水準の状況が続いています。一方、生産台数は、前年比2.1%減となっています。

包装機械業界の環境は、国内の設備投資需要は堅調に推移しているとともに、輸出は、アジア・北米地区向けが好調に推移しています。業界全体の平成27年度の実績は、前年度から増加し、4,100億円を越える見通しであります。

当社につきましては、上期の機械受注高は前年同期を上回り、自社機品目の受注高は、前年同期比約4割増となりました。売上高は、上期は計画を下回りましたが、下期でカバーできることから、通期では、期初予想通りとなる見通しです。海外市場向けにつきましては、上期の売上高は前年同期を下回りましたが、受注高は、前年同期を上回りました。

◆2016年7月期第2四半期決算概況（説明会資料 スライド5～16）

売上高は、販売台数の減少などにより、1千2百万円の減収となりました。経常利益増減要因につきましては、図で示しておりますが、売上減少による利益減と、販売管理費の増加がマイナス要因となり、経常利益は1千9百万円の減益となりました。期初予想に対しては、売上時期が第3四半期にずれ込んだことから、2億5千4百万円の減収となりましたが、研究開発費が計画より減少したことから、4千3百万円の増益となる結果となりました。

売上総利益率は、前年同期と同等でありましたので、減収により、売上総利益は、3百万円の減少となりました。販売管理費は、前年同期に対して1千1百万円増加したことから、経常利益は、前年同期に対して1千9百万円の減益となりました。四半期純利益については、計画を上回ったものの、前年同期に対して1千7百万円の減益となりました。

品目別にご説明すると、高機能機種の販売実績が増加したことから、給袋自動包装機は、前年同期に対して増加しましたが、製袋自動包装機、包装関連機器は、前年同期に対して減少となりました。この結果、機械売上高は1千万円の減収となりました。保守消耗部品その他では、僅かに減少となりました。なお、計画に対しては、機械売上高は、高額案件で繰越が複数発生したことから、3億4千万円の減少となり、保守消耗部品は、高額案件が増加したことから、8千6百万円の増加となりました。

当社の四半期売上高につきましては、大型案件の有無、高価格機種の販売台数により、大きく変動する傾向にあります。また、販売台数についても、中小型案件の件数の増減により、ご覧の通り大きく変動しております。自社で設計・製造している機械の販売台数は、前年同期比9台減少しましたが、売上高は、高価格機種の増加により、前年同期比3千6百万円の増加となりました。今後については、第3四半期以降の売上高が増加する見通しであります。

売上高をエンドユーザーの業種別にみると、食品業界向けの売上高は、前年同期に比べて2.7%の減少となりました。下期は、販売台数が増加することから、上期より増加する見通しです。化学関連業界向けの売上高は、健康食品向けの実績が増加したことから、前年同期に比べて3.3%の増加となりました。下期は、大型案件があることから、上期より大幅

に増加する見通しです。その他業界向けの売上高は、国内のペットフード向けの実績が増加したことから、前年同期に比べて12.6%の増加となりました。下期は、海外のペットフード向けの高額案件により、上期より増加する見通しです。下期見通しについては、全体としては、上期より大幅に増加する見込みであります。

また、売上高を国内と海外市場別にご説明すると、国内市場向け売上高は、高価格機種の販売台数が増加したことから、前年同期比7千5百万円の増加となりました。下期は、上期に対して、増加する見通しです。海外市場向けの売上高は、販売台数が減少したことから、前年同期比8千6百万円の減少となりました。下期は、販売台数の増加と高額案件の実績により、上期より大幅に増加する見通しです。

海外市場向けの売上高について、さらに地域別でみると、アジア市場向けは、販売台数が減少したことから、前期同期より減少しました。その他の地域については、販売実績がありませんでした。また、部品についても、前期同期より減少したことから、全体の売上高は、前期同期より1億4千4百万円減少し、海外向け売上高比率は、5.4%となりました。下期については、アジア市場向けが増加するとともに、その他の地域でも実績が見込めることから、全体として上期より大幅に増加する見通しです。

参考までに、海外の国別の納入実績は、緑色で記載しておりますアジア地域につきましては、今期の上期は、台湾とタイで、合計で5台の実績となりました。

黄土色で記載しております、欧州と北米・南米につきましては、前期まではペットフード向けの実績が中心であります。今期の上期は、実績がありませんでした。下期につきましては、スライド下側に記載してあります7カ国への納入を予定しています。

機械の受注動向について、機械の受注件数は、全体として前年同期と同数となりました。なお、1億円以上の大型案件の受注件数は、前年同期より1件増加しました。下期につきましては、需要が好調な中型、小型案件の受注増加を目指していきます。

機械の受注高は、高額案件の受注が増加したことから、前年同期比7千9百万円の増加となりました。一方、期末受注残高につきましては、大型案件の受注残高の減少により、前年同期からは大幅な減少となりました。下期の受注高につきましては、大型案件の確保と包装関連機器の増加を目指していきます。

高額保守案件の受注高の推移ですが、受注件数が増加するとともに、1千万円以上の改造需要が増加したことから、受注高は前年同期より1億3千5百万円増加しました。受注残高につきましても、前年同期より7千5百万円増加となっています。下期につきましては、上期に対して横ばいの見通しです。

販売費及び一般管理費について、当上期につきましては、人件費等の増加により、前年同期に対して2.5%の増加となりました。下期は、研究開発費等の増加により、上期より大幅に増加しますが、通期で前期より8.2%減少する見込みであります。

◆2016年7月期通期業績見通し（説明会資料 スライド18～21）

通期業績見通しにつきましては、業績動向を踏まえ、下期計画を一部修正しております。なお、通期の売上高と営業利益の見通しについては、修正はありません。売上高計画については、上期の繰越分を下期に計上できることから、通期で期初計画通りとなる見通しです。営業利益については、下期は、販売管理費の増加に伴い計画を下回る見込みであることから、通期では期初計画通りとなる見通しです。

売上高は、前期比7.6%減の50億円を見込んでいます。下期の主な取組みとしては、受注案件の納期集中に伴い繁忙期を迎えていることから、生産力の強化を図るとともに、海外向けの売上高の増加に取り組んでいく予定であります。売上総利益率につきましては、前期比1ポイント低下し、27.5%を見込んでいます。販管費は、研究開発費などが減少することか

ら、前期比 8.2 減となる予定であります。この結果、営業利益率は 0.9 ポイント低下し、5%を見込んでいます。当期純利益は、前期比 5 千 9 百万円減の 1 億 6 千 5 百万円を計画しております。

品目別売上高の下期の計画値は表の通りです。全体としては、通期では給袋自動包装機は増加するものの、その他品目が減少となり、減収となる見通しです。給袋自動包装機は、下期も増加し、通期では前期を 7 億円上回る見通しです。製袋自動包装機は、下期は上期より増加するものの、通期では、前期を 3 億 7 千万円程度下回る見通しです。包装機関連機器は、下期は上期より大幅に増加するものの、大型包装システムの減少により、通期では前期を 6 億円程度下回る見通しです。保守消耗部品その他は、通期では前期を 1 億 4 千万円程度下回る見通しです。

最後に、株主還元についてですが、中期配当政策につきましては、配当性向 50%または DOE 2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら、配当金の増加を目指していきたいと考えております。2016 年 7 月期の配当予想につきましては、2016 年 2 月 1 日付で、5 株につき 1 株の株式併合を実施しましたので、これを考慮した予想数値を記載いたします。従来の基準ですと 7 円となります。2015 年 7 月期は、上方修正に伴い 9 円に増配しましたが、2016 年 7 月期は、減益予想のため、2014 年 7 月期と実質的に同額を予定しております。

◆中期経営計画及び経営戦略の主な取り組み状況（説明会資料 スライド 23～32）

第 4 次中期経営計画は、海外市場での成長基盤構築の時期と位置づけて、ご覧の中期経営ビジョンを掲げています。中期数値目標につきましては、ご覧の表の通り、全ての項目について、第 3 次中計の最終年度である 14 年 7 月期の実績から増加させることを目標としております。

第 4 次中計の業績計画は、ご覧のグラフの通りであります。収益の安定化と拡大に注力し、経常利益で安定的に 2 億円以上を確保することを計画しております。第 1 期の 2015 年 7 月期は、当初計画では減収・減益を予想しておりましたが、計画を大きく上回り、増収・増益となりました。第 2 期、第 3 期の計画につきましては、当初計画から変更しておりません。なお、第 3 期の数値については、事業環境と業績動向を踏まえてローリングする場合があります。

事業計画モデルにて、国内市場の売上高につきましては、期初予想は、32 億円を見込んでいましたが、販売台数の増加により、33 億円を超える見通しであります。海外市場の売上高につきましては、2015 年 7 月期実績から反動減を予想し、期初予想は 8 億円を見込んでいましたが、高額案件の受注が減少していることから、5 億円台になる見通しであります。今後、さらに海外市場の開拓強化に取り組んでいきます。保守消耗部品の売上高につきましては、国内市場の受注が増加していることから、期初予想より 1 億円以上、増加する見通しです。

基本戦略につきましては、「持続的成長に向けてグローバル企業を目指す」であります。ご覧の図の様に、国内市場で安定的な売上高を確保しながら、海外事業を強化していく戦略であります。国内市場では、ソリューションビジネスの拡大に、海外市場では、中国・東南アジア市場の販売基盤の確立と海外市場向けの商品拡大に取り組んでいきます。また、国内市場の既存分野については、顧客関係の深化と新機種投入に取り組んでいきます。

また、基本戦略につきましては、さらに具体的な戦略を策定しております。ご覧の 1 番目から 5 番については、先のスライドでご説明した項目を具体化したものであります。これらの戦略に対する取り組みを強化していきます。さらに、事業領域拡大のために、M&A やアライアンスを推進していきます。

また、基本戦略を実現していくための主な経営施策として、個別戦略を策定しています。ここでは、販売戦略と開発・技術戦略のみを記載しております。

販売戦略の中で、海外事業の強化につきましては、まず、海外営業部の増員による体制強化を実施しています。販売基盤の確立として、中国市場につきましては、代理店の営業活動支援に注力しております。今後、中国市場の開拓をさらに強化していきます。東南アジア市場につきましては、新規販売チャネルの開拓に取り組んでおり、当上期に、タイで1社代理店契約を締結しました。インドネシアやその他の国についても、調査とアプローチを継続中であり、欧米市場につきましては、ペットフード用包装機の拡大に取り組んでいます。海外市場の新規顧客開拓の受注実績は、ご覧の表の通りであります。

ソリューションビジネスの拡大につきましては、国内既存顧客へのソリューション提案と、中国・台湾市場の新規顧客開拓に注力しております。高額システムの受注実績は、ご覧の表の通りで、今期の上期実績は、まだ1件に留まっていますが、見込み案件数が増加してきていますので、下期に受注活動をさらに強化していきます。なお、高額システムの一部は、資本業務提携先のワイ・イー・データのロボット応用システムを納入しております。

開発・技術戦略の取組み状況ですが、開発テーマとしては、第4次中計では、メカトロモーション技術やコア技術、次世代包装機の開発、ニーズに対応した新機種の開発を推進しています。2016年7月期は、ペットフード用新機種と次世代包装機の開発に注力しています。開発実績と販売台数は、ご覧の表の通りであります。今期の上期は、1機種の完成実績となり、下期には、1から2機種を完成させる計画であります。なお、現在開発中のペットフード用新機種は、4台の受注残があります。

研究開発費の推移につきましては、ご覧のグラフの通りであります。2016年7月期の売上高研究開発費比率は、5%を計画しております。

◆参考情報（説明会資料 スライド34～38）

包装機械業界全体の市場規模は、2014年度は約4,000億円程度で、需要先としては、食品部門が5割程度を占めています。このため、比較的安定した業界であります。当社は、粉末・顆粒・固形物等のドライ物の包装機械・システムに特化しております。また、高品質かつ難易度の高い包装分野を得意としています。競合先としては、同じロータリー式包装機メーカーである東洋自動機、古川製作所であります。

主要市場、主要ユーザーとしては、ご覧の図の通りであります。高品質、難易度の高い包装分野をターゲットとしております。販売経路としては、6割以上が直販ですが、各業界の上位を中心に営業活動をしております。

経営ビジョンとして、**One stop**で応えるソリューションカンパニーを掲げていますが、図の様に包装工程以外の分野についても、ソリューション力の強化に取り組んでいます。また、人員推移は表の通りであります。開発・技術部を中心として、継続的に人材の強化を図っています。

これからも、食品や医薬品を安全・確実に包装する技術を通じて、より大きな社会的貢献を果たせるよう、一層の努力を重ねるとともに、業績の向上と企業の健全性に努めていきたいと考えております。